

機関リポジトリ推進委員会 WG/TF報告

作業部会/

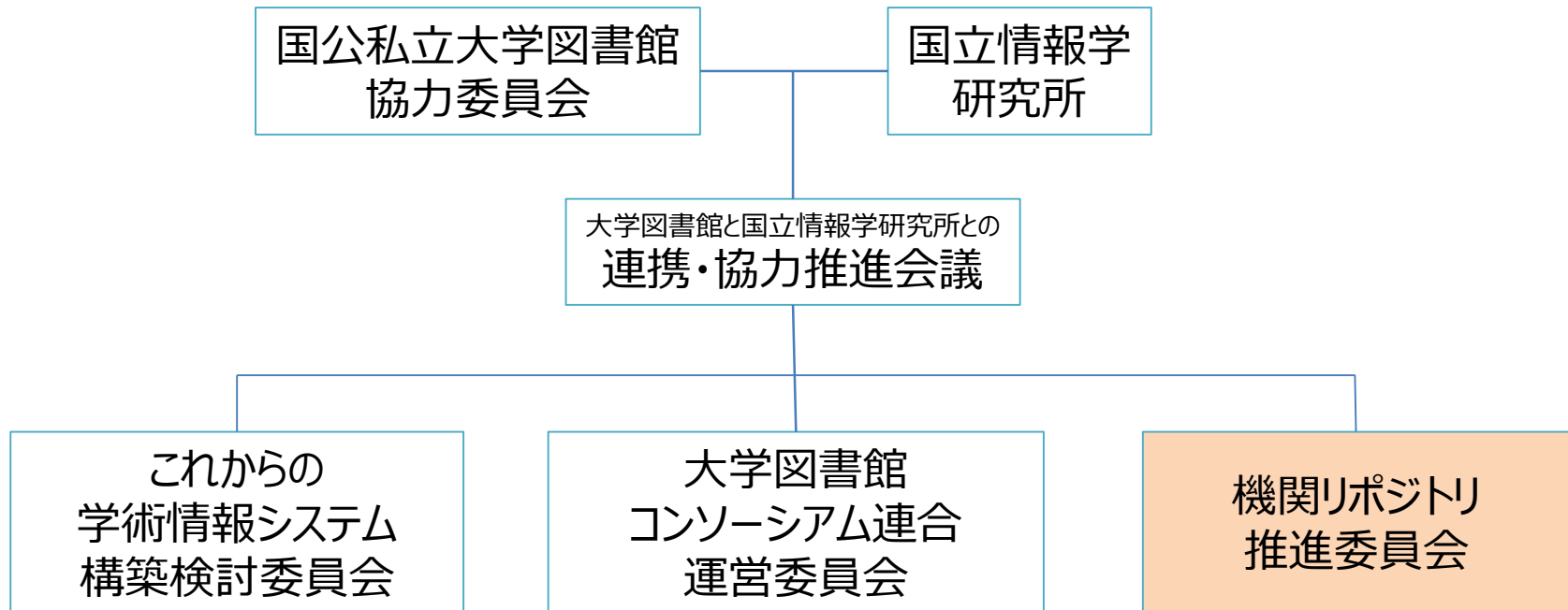
機関リポジトリ推進委員会WG協力員,
広島大学図書館

川村 拓郎

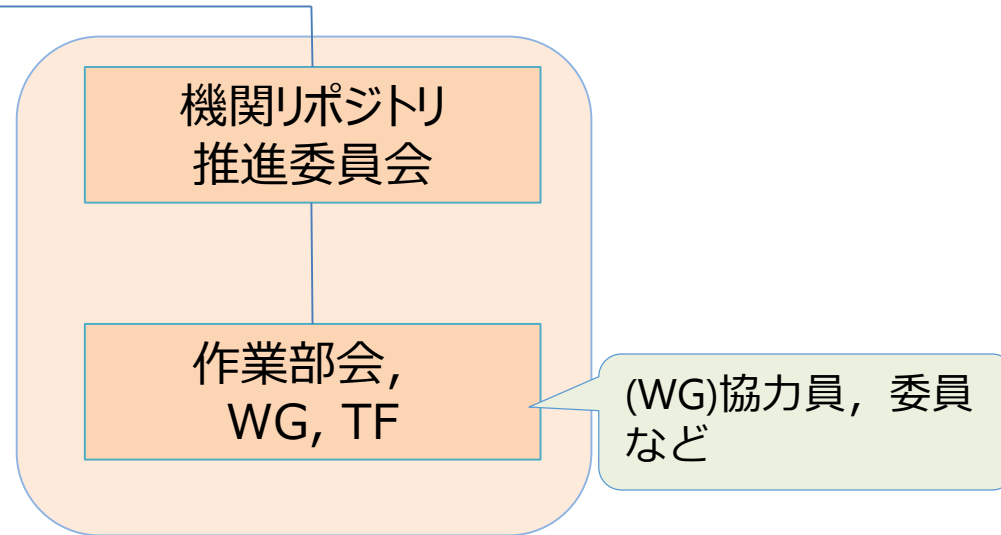
目次

- 機関リポジトリ推進委員会について
 - － 機関リポジトリ推進委員会 / WG, 作業部会, TF
- WG/作業部会/タスクフォース報告
 - － 作業部会 : JAIRO Cloud運用 / 研修 / 広報
 - － TF : 研究データ / 論文OA / メタデータ / 指標・評価・メトリックス / COAR Asia

機関リポジトリ推進委員会



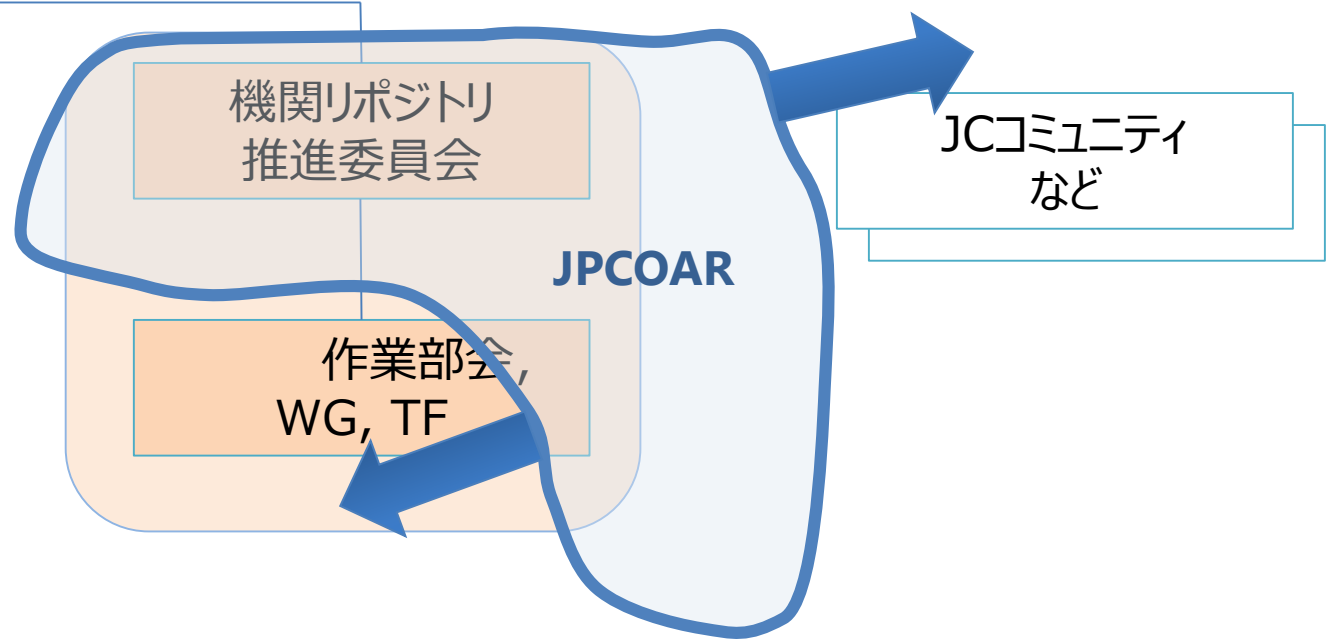
WG, 作業部会, TF



作業部会とタスクフォース

- 作業部会（継続的）
 - ずっと必要な課題領域に設けられる
 - JAIRO Cloud運用 / 研修 / 広報
- タスクフォース（一時的）
 - ある課題のために一時的に設けられる
 - 研究データ / 論文OA / メタデータ / 指標・評価・メトリックス / (COAR Asia)

JPCOAR(イメージ・余談)



参考：

- ・オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規定, <http://id.nii.ac.jp/1458/00000011/>
- ・「機関リポジトリ新協議会（仮称）」設立準備会設置要綱, <http://id.nii.ac.jp/1280/00000146/>

目次

- 機関リポジトリ推進委員会について
 - － 機関リポジトリ推進委員会 / WG
- ~~WG~~/作業部会/タスクフォース報告
 - － 作業部会 : JAIRO Cloud運用 / 研修 / 広報
 - － TF : 研究データ / 論文OA / メタデータ / 指標・評価・メトリックス / COAR Asia

注

- ここからは、第18回図書館総合展にて開催された「リポジトリの未来を考える：オープンサイエンス時代の到来を迎えて」の発表資料を利用(一部抜粋・改変)してお話しします。
 - https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=69&pn=1&page_id=25&block_id=42
 - この吹き出しは川村メモです。

JAIRO Cloud運用作業部会

江川和子(筑波大)
さん発表資料

- 国内共通のリポジトリシステム基盤であるJAIRO Cloudの安定的な運用と機能改善および普及のための諸課題について検討・実施する。

(1) JAIRO Cloud移行サポート

- 現在、約30機関が移行中
※「移行サポート勉強会」を試行的に実施する

(2) JAIRO Cloud掲示板のサポート

- 作業部会メンバーが積極的に回答(随時)
- コミュニティサイトのありかたについても検討

(3) JAIRO Cloud機能改善の検討

- WEKO ver.2.3.0へのアップデート評価に協力(完了)
- 将来の改修に向けてユーザ要望の取りまとめを検討

(4) SCPJの運用について

- SCPJ(Society Policies in Japan/学協会著作権ポリシーデータベース)をJPCOARの事業として引き継ぐ具体的方策を検討

DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行勉強会(案)

日時：平成28年12月16日(金)13時30分～15時30分

場所：国立情報学研究所(学術情報センター)

テレビ会議(WebEx)参加も可能

対象：

- JAIRO Cloudへ移行中、もしくは移行検討中の担当者
- DSpaceの利用機関を想定

内容：

- 実践的なノウハウの共有、技術的な課題についての具体的な解決を図る。
- 機関リポジトリ推進委員会からの話題提供
- 参加者からの報告・情報交換・懸案解決
- 相談用の移行サンプルデータ等の持ち込み可
- 「クローズド」な勉強会とする。

※まもなく募集開始します。

リポジトリの未来を考える：オープンサイエンス時代の到来を迎えて

平成28年度 機関リポジトリ推進委員会 研修作業部会 活動報告

第18回図書館総合展
平成28年11月9日

機関リポジトリ推進委員会 研修作業部会
神戸松蔭女子学院大学 加川 みどり

平成28年度 機関リポジトリ新任担当者研修 開催日程

NIIの教育研修事業
として共同開催

- | | | | | | |
|-----|-----------|---|--------|------------|--------------|
| 第1回 | 6月23日（木） | ～ | 24日（金） | 国立情報学研究所 | （申込期限：5月6日） |
| 第2回 | 7月28日（木） | ～ | 29日（金） | 国立情報学研究所 | （申込期限：6月3日） |
| 第3回 | 8月22日（月） | ～ | 23日（火） | 長崎国際大学 | （申込期限：7月1日） |
| 第4回 | 9月13日（火） | ～ | 14日（水） | 神戸松蔭女子学院大学 | （申込期限：7月22日） |
| 第5回 | 10月27日（木） | ～ | 28日（金） | 国立情報学研究所 | （申込期限：9月2日） |

平成28年度 機関リポジトリ新任担当者研修 カリキュラム

1日目		2日目	
10:30～10:40	開講式	9:30～10:00	事例報告（2例）
10:40～11:30	機関リポジトリ概論	10:00～10:45	コンテンツ構築
11:30～12:00	グループ討議	10:45～11:15	模擬説明会
13:00～13:45	システム管理・メタデータ	11:15～11:45	グループ討議
14:00～15:05	著作権及び著作権譲渡契約	12:45～13:45	質疑応答・ディスカッション
15:05～16:05	研究者から見たリポジトリ	13:45～14:00	閉講式
16:15～17:25	コンテンツ登録実習	14:20～17:00	補講（JAIR Cloud実習）

＋サイボウズLiveでの
各回毎の意見交換環境

申込者及び受講者数

>1

会場	申込者数	辞退者数	実質申込者数	受講者数	倍率	担当者数
国立情報学研所 6月23日～24日	60	1	59	32	1.84	9
国立情報学研所 7月28日～29日	61	3	58	32	1.81	9
長崎国際大学 8月22日～23日	23	0	23	20	1.15	8
神戸松蔭女学院学 9月13日～14日	44	0	44	23	1.91	9
国立情報学研究所 10月27日～28日	57	0	57	32	1.78	10
合計	245	4	241	139	1.73	45

申込者の状況

構築状況

構築状況	受講者数	受講不可者数	辞退者数	合計
構築済 (公開済)	77	69	3	149
構築検討中	36	18	1	55
構築中 (未公開)	24	13	0	37
その他	2	2	0	4
合計	139	102	4	245

JAIRO Cloud 講習既受講状況

JC講習既受講者数	申込者数
0	99
1	115
2	26
3	4
5	1
総計	245

横浜国立大学
筑波大学
静岡大学
鳥取大学
鳥取大学
神戸大学
神戸松蔭

直江
船山
鈴木
中谷
尾崎
花崎
加川

千寿子
桂子
雅子
昇
文代
佳代子
みどり

(敬称略・順不同)

広報作業部会 活動報告

2016.11.9 図書館総合展
リポジトリの未来を考える 第2部

鳥取大学附属図書館 尾崎文代

メンバー

- 富田 健市 (北海道大学 / 主査)
- 山本 和雄 (琉球大学 / 国際担当副主査)
- 鈴木 雅子 (静岡大学 / 協力員)
- 尾崎 文代 (鳥取大学 / 協力員)
- 中原 由美子 (筑波大学 / 協力員)
- 松野 渉 (筑波大学 / 協力員)
- 関澤 智子 (新潟大学 / 協力員)
- 花崎 佳代子 (神戸大学 / 協力員)
- 中谷 昇 (鳥取大学 / 協力員)

+事務局 / 国立情報学研究所

活動内容

JPCOAR

- 機関リポジトリ推進委員会
オープンアクセスリポジトリ推進協会
の広報（ウェブサイト、facebook、他）
- JPCOARイベント企画運営
- 国際協力

広報

Facebookページ メッセージ お知らせ 3 インサイト 投稿ツール

いいね! 済み メッセージ その他

投稿するにはEnterキーを押します。

IRPC
Institutional Repositories
Promotion Committee
機関リポジトリ推進委員会

機関リポジトリ
推進委員会
@ir.suishin

ホーム
ページ情報
写真
レビュー
いいね!
イベント
動画
ノート
投稿
ショップ
タブを管理

IRPC 機関リポジトリ推進委員会
作成者: 関澤智子 [?] · 10月5日 13:14 ·

11月9日(水)にパシフィコ横浜で開催される第18回「図書館総合
いて、オープンフォーラム「リポジトリの未来を考える：オープ
ス時代の到来を迎えて」をオープンアクセスリポジトリ推進協会
(JPCOAR)と共催します。
この機会にぜひご来場ください!

開催概要・参加申込方法については、機関リポジトリ推進委員会
イトに掲載しました。
下記URLよりご覧ください。... もっと見る

リーチ70人 投稿の広告を出す

いいね! コメントする シェアする

山中 節子さん、Reiko Morikawaさん、真中 孝行さん

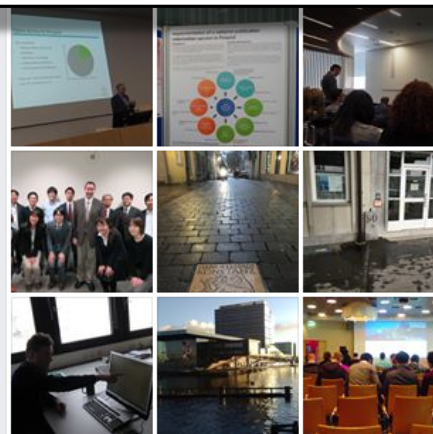
IRPC コメントする...
投稿するにはEnterキーを押します。

IRPC 機関リポジトリ推進委員会
作成者: 中原 由美子 [?] · 9月16日 ·

9月8日～9日の二日間にわたって行ったメタデータ検討タスクフォース集中
検討会の報告を、機関リポジトリ推進委員会のWebサイトに掲載しまし
た。
下記URLよりご覧ください。



オープンアクセスリポジトリ推進協会 Japan Consortium for Open Access Repository : JPCOAR 参加機関募集



近日予定のイベント

イベント

- 2016.5.26 NIIオープンフォーラム新協会説明会
- 2016.7.27 JPCOAR設立総会
- 2016.11.8-10 図書館総合展
フォーラム / ブースプレゼン
- 2016.12.2 JPCOAR地域ワークショップ(広島)
- 2017.3.8 JPCOAR総会

国際協力（海外派遣）

- COAR Annual Meeting 2016.4.12-13(Wien)
- Open Repositories 2016 2016.6.13-16 (Dublin)
- CRIS2016 2016.6.8-11 (Scotland)
- COAR Asia 2016.11.14-15 (Kuala Lumpur)

CRIS:Current Research
Information Systems

COAR:Confederation of
Open Access Repositories

目次

- 機関リポジトリ推進委員会について
 - － 機関リポジトリ推進委員会 / WG
- ~~WG~~/作業部会/タスクフォース報告
 - － 作業部会 : JAIRO Cloud運用 / 研修 / 広報
 - － TF : 研究データ / 論文OA / メタデータ / 指標・評価・メトリックス / COAR Asia



Repository Module on NC2
WEKO



第18回図書館総合展

リポジトリの未来を考える：オープンサイエンス時代の到来を迎えて

2016.11.9 於 パシフィコ横浜

第2部 15:50-17:00

リポジトリ事例報告・活動報告

研究データ

IR推進委員会「研究データ」タスクフォース

千葉大学附属図書館

三角 太郎



オープンサイエンス

国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会の開催について

平成 26 年 11 月 13 日

内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）
決定

1. 趣旨 オープンサイエンスに係る世界的議論の動向を的確に把握した上で、我が国としての基本姿勢を明らかにするとともに、早急に講ずべき施策及び中長期的観点から講ずべき施策等を検討するため、「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」（以下「検討会」という。）を開催する。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/sonota/openscience/setti.pdf>

我が国におけるオープンサイエンス
推進のあり方について

～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～

2015 年 3 月 30 日

国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会

オープンサイエンスとは

オープンサイエンスとは、公的研究資金を用いた研究成果（論文、生成された研究データ等）について、科学界はもとより産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することで、イノベーションの創出につなげることを目指した新しいサイエンスの進め方を意味する。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/sonota/openscience/index.html>
第5期科学技術基本計画 本文 より

図書館員的には、この二つ

- 1) 公的研究成果による論文の
オープンアクセス化
- 2) 研究データの
オープンアクセス化

学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）

平成28年2月

科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/036/houkoku/1368803.htm

【大学等に期待される取組】

- ・ **機関リポジトリをグリーンOAの基盤**として更に拡充する。
- ・ **オープンアクセスに係る方針**を定め公表する。
- ・ **研究者のデータ管理計画の作成**と計画に従った管理の実施について支援する。
- ・ **研究データの保管に係る基盤整備**について、情報基盤の共有や効率的な整備の観点から、NIIと連携してアカデミッククラウドを構築し、その活用を図る。

学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）

平成28年2月

科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/036/houkoku/1368803.htm

【大学等に期待される取組】

- ・ **論文、研究データの管理に係る規則**を定め、研究成果の散逸、消滅、損壊を防止するための施策を講ずる。
- ・ 具体的には、論文及び研究データに永続性のある**デジタル識別子**を付与し管理する仕組みを確立する必要があり、**ジャパンリンクセンター（JaLC）**の活動と連携し進める。

学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）

平成28年2月

科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/036/houkoku/1368803.htm

【大学等に期待される取組】



- ・ **技術職員、URA及び大学図書館職員等を中心としたデータ管理体制**を構築し、研究者への支援に資するとともに、必要に応じて複数の大学等が共同して、データキュレーター等を育成するシステムを検討し、推進する。
- ・ 特に、**大学図書館**には、機関リポジトリの構築を進めてきた経験等から、**研究成果の利活用促進の取組に積極的な役割**を果たすことが期待される。このため、大学の当該領域に関連する研究科等において、大学図書館職員等を対象にデータキュレーター等を育成するプログラムを開発し、実践的に取り組んでいく。

平成28年度研究データタスクフォースのメインテーマ

RDMトレーニングツールの開発

平成27年度は調査を実施・分析し、基礎資料翻訳を行ったが、平成28年度はそれに引き続き、トレーニングツールの試作を行う。国内の多くの図書館職員には、研究データの管理支援の、具体的な業務についてイメージすることが困難であり、業務展開に対する楽観論と悲観論が混在しているのが現状。それを解消し図書館員が研究支援へ踏み出すためのステップとなる教材の開発をめざす。

← 対象は**図書館員に限定しない**

RDM: Research Data
Management, 研究データ
管理

メンバー

主査) 尾城孝一 東京大学附属図書館

副主査) 山地 一禎 国立情報学研究所学術ネットワーク
研究開発センター

前田 翔太

北海道大学附属図書館

三角 太郎

千葉大学附属図書館

天野 絵里子

京都大学学術研究支援室

大園 隼彦

岡山大学附属図書館

西園 由依

鹿児島大学学術情報部

南山 泰之

情報・システム研究機構

国立極地研究所情報図書室

誰が担う？

研究者だけでできるのか？

→ますます研究時間がなくなる？

→研究者の支援者が必要

→支援者の候補

- ・ 図書館
- ・ IT部門
- ・ 研究支援部門職員（URA含）
- ・ 研究室で研究補助業務に携わる方

※ トレーニングツールが必須！

教材の目的

1. 各学習者がRDMに関する基礎的な知識を得ること
 2. RDMサービス構築の足がかりを得ること
- ▶ 研究活動に伴い研究データがたどるプロセスとその管理のあり方について理解
 - ▶ 研究の再現性と透明性の向上に欠かせない、効果的なRDMを行うための方法についての概略を学ぶ
 - ▶ 学習者がそれぞれの所属機関におけるRDMサービス構築に向けて戦略立案を行うための考え方を知ることができる

イメージ図

研究データ管理

2.3 データ管理計画の実際

ツール例

- ▶ DMPTool (カリフォルニア大学)
<https://dmptool.org/>
- ▶ DMPOnline (DCC)
<https://dmponline.dcc.ac.uk/>

誰でも無料で
アカウント作成
可能

ビデオをダウンロード
手帳をダウンロード

シラバス

第0章 学習の手引き

教材の学習方法についての説明。

第1章 導入

研究データ管理の重要性が増している背景や、研究データ、研究データ管理の定義について学ぶ。

第2章 データ管理計画（DMP）

効果的なデータ管理に欠かせないデータ管理計画に関し、作成義務化の動向や、その構成要素について学ぶ。

第3章 保存と共有

研究データの研究期間中の保管や長期保存に関する留意点について学ぶ。また、研究データの共有に関して、その意義や検討すべき点、共有方法について学ぶ。

第4章 組織化・メタデータ

研究データを長期的に管理・活用するために欠かせない、一定のルールに則ったデータの組織化やデータについて説明する文書やメタデータの作成について学ぶ。

シラバス

第5章 法倫理的問題

研究データをめぐる著作権や、再利用を促進するためのライセンスの仕組みについて学ぶ。あわせて、センシティブデータを取り扱う上での留意点や、研究倫理についても学ぶ。

第6章 ポリシー

国や助成団体、機関、雑誌等が、研究データの保存や共有を求めるポリシーを策定する例が増えており、これらの動向と要件について学ぶ。

第7章 サポートサービスの検討

前章までの内容を踏まえ、学習者が自機関での研究データ管理サービスを構築していくためのステップを学ぶ。

第8章 参考資料

さらに学ぶための情報源の提示。

教材のサンプル（未定稿）

ワーク

- 自機関の研究データに関するポリシー、ガイドラインの有無を調べ、保存対象、保存期間、とりあつかいの責任者を調べる。
- 自機関の研究者の論文を一つ選び、その掲載誌の研究データのポリシーを確認する。

今後のスケジュール

12月14日～16日 京都で開催される
AXIES（大学ICT推進協議会）での発表
を目指して準備中。

機関リポジトリ推進委員会 論文OAタスクフォース報告

林 豊（推進委員会協力員／九州大学附属図書館）
第18回図書館総合展、2016/11/9（水）

主査

尾城
孝一

東大

副主査

菊池
亮一

明大

副主査

高橋
菜奈子

千葉大

副主査

島
文子

京大

青山
俊弘

鈴鹿高専

今井
敬吾

岐阜大

佐々木
翼

北大

菊谷
英司

KEK

関澤
智子

新潟大

直江
千寿子

横国大

林
豊

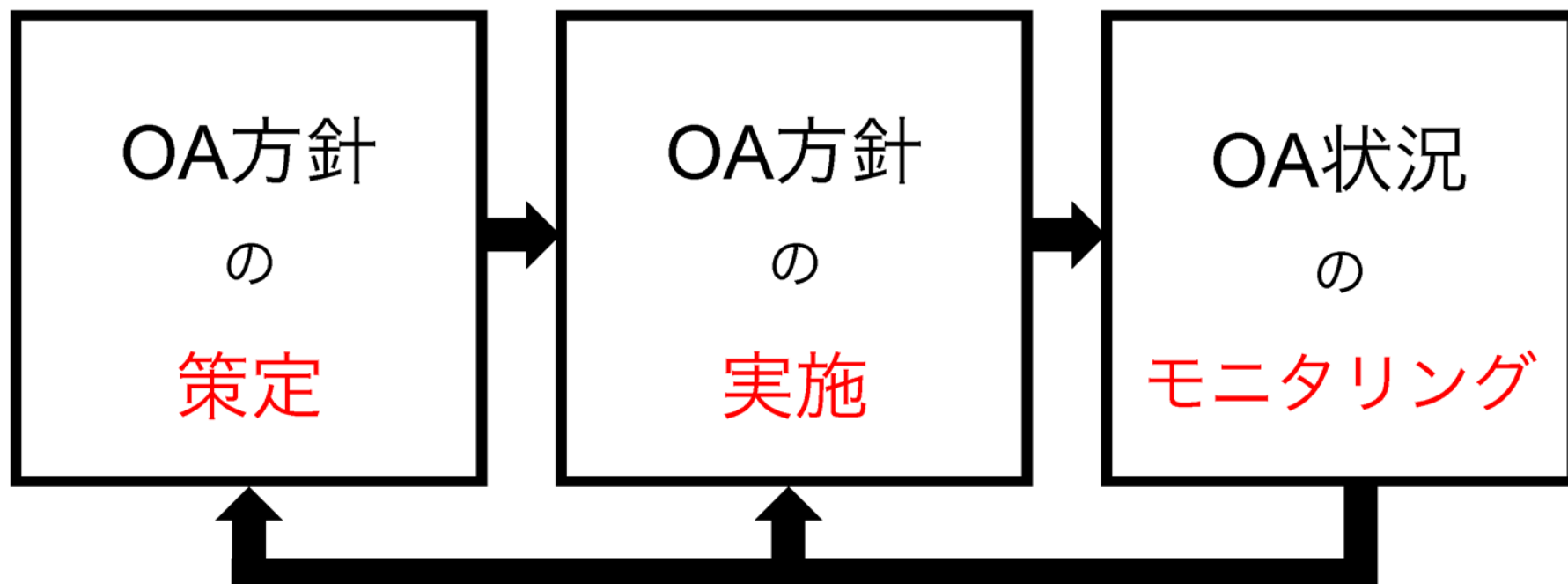
九大

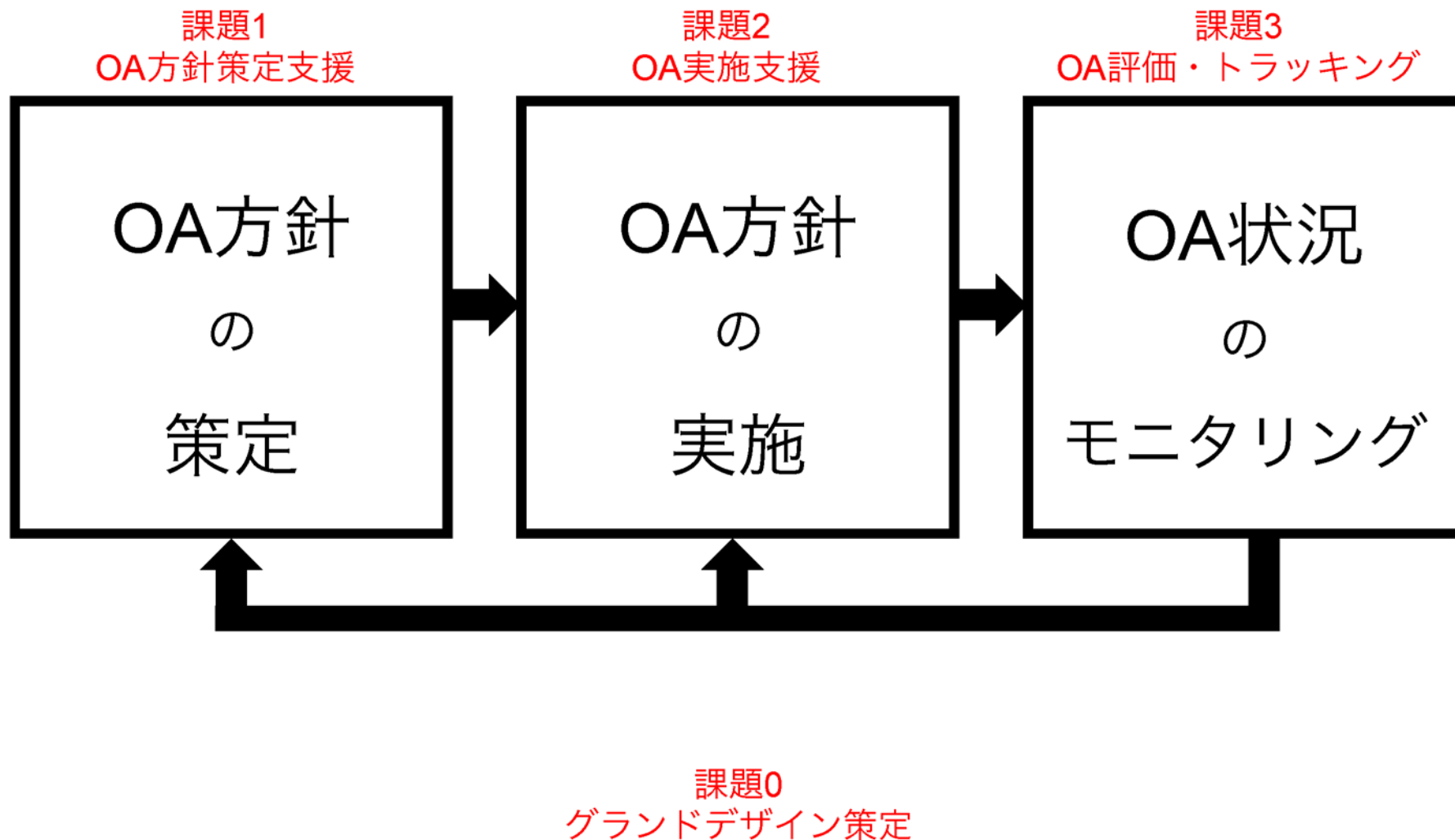
上原
藤子

OIST



論文のOAの推進！

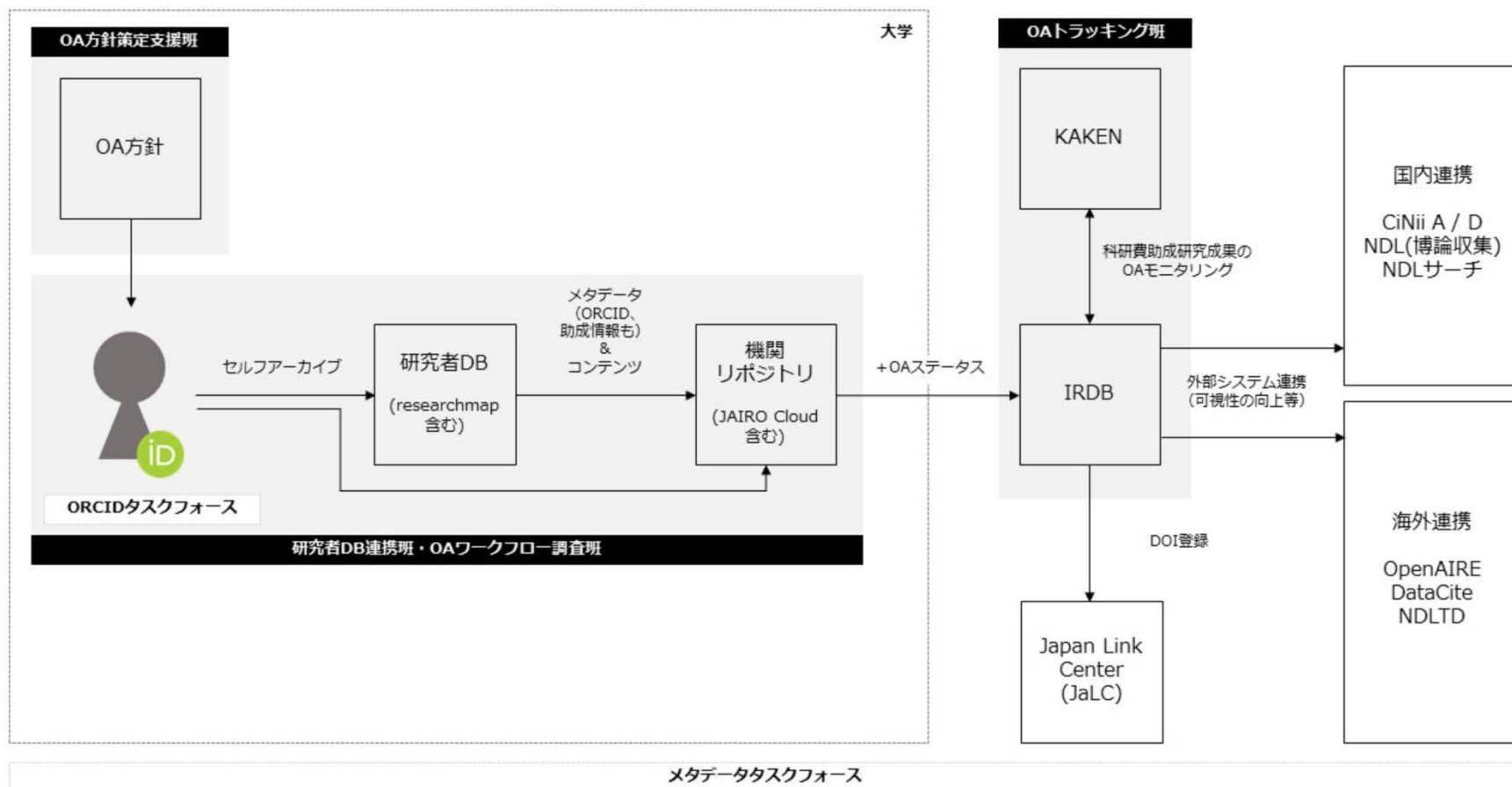




課題0 グランドデザイン策定

- メンバー：高橋、直江、林
- 論文OA推進のグランドデザインを提示
- 成果物：グランドデザイン図

機関リポジトリのメタデータフローと機関リポジトリ推進委員会の取組



課題1 OA方針策定支援

- メンバー：関澤、佐々木、直江、菊谷
- 各大学におけるOA方針策定を支援するツールキット（ロードマップ、**策定ガイド**、方針の雛形、リンク集など）の作成
- 成果物：ツールキット

ロードマップ



フェーズ1 計画	<ul style="list-style-type: none"> 検討プロジェクト立上げ 他機関のOA方針の研究 運用体制の確認（人員＆技術面） 策定・実施計画の作成 	1～2か月
フェーズ2 方針案作成, 策定	<ul style="list-style-type: none"> 方針案, 説明文書の作成 図書館委員会, キーパーソンへの説明 教員のコメント受付 ポリシーの承認 	1～3か月
フェーズ3 プロモーション, 認知向上	<ul style="list-style-type: none"> 複数媒体による学内周知 教員向け説明会の開催 プレスリリースの発行 ROARMAPへの登録 	1～3か月
フェーズ4 実施	<ul style="list-style-type: none"> 方針の実施 実施要領の作成, 学内周知 教員向けのFAQや登録サポート 	1～3か月
フェーズ5 フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> 利用統計の作成 対象論文の捕捉と登録の呼びかけ モニタリング, 上層部への情報提供 	継続

(The OpenAIRE guide for research institutions を元に作成)

1

〇〇〇〇大学オープンアクセス方針

平成〇〇年〇〇月〇〇日

〔 学長裁定
役員会裁定 など 〕

(趣旨)

- 1 〇〇〇〇大学は、本学において生産された研究成果を広く学内外を問わず公開することにより、学術研究のさらなる発展に寄与すること、またその成果を社会に還元すること地域および国際社会の持続的発展に貢献すること〔下線部は各大学のビジョン等に基づき記入〕を目的として、オープンアクセスに関する方針を以下のように定める。

(研究成果の公開)

- 2 本学は、本学に在籍する教員（以下「教員」という。）が、出版社、学協会、学内部局等が発行する学術雑誌等に掲載された研究成果（以下「研究成果」という。）を、〔機関リポジトリ名称を記入〕（以下「リポジトリ」という。）によって公開する。ただし、研究成果の著作権は、本学には移転しない。

(適用の例外)

- 3 著作権等の理由でリポジトリによる公開が不適切であるとの申出が教員からあった場合、本学は当該研究成果を公開しない。

(適用の不遡及)

- 4 本方針施行以前に出版された研究成果や、本方針施行以前に本方針と相反する契約を締結した研究成果には、本方針は適用されない。

(リポジトリへの登録)

- 5 教員は、研究成果について、できるだけすみやかにリポジトリ登録が許諾される著者最終原稿等の適切な版を本学に提供する。リポジトリへの登録、公開等リポジトリに関する事項は、〔リポジトリ運用指針を記入〕に基づき取り扱う。

(その他)

- 6 本方針に定めるもののほか、オープンアクセスに関し必要な事項は、関係者間で協議して定める。

課題2 OA実施支援

- メンバー：直江、関澤、今井、上原、林
 - OA方針策定大学のワークフローを調査
 - 成果物：調査報告書
-
- メンバー：林、今井、青山、上原
 - 研究者DB連携機能の開発（researchmapに論文メタデータが登録されたら通知）
 - 成果物：連携機能

課題3 OA評価・トラッキング

- メンバー：林、片岡、今井
- OAモニタリングシステムを開発し、特定の集合（KAKEN等）におけるOA率を算出
- 成果物：OA率、モニタリングシステム

今後の予定

- ～年度末 各課題の成果物が完成 ⇒公表
- 2017/5 NIIオープンフォーラムで成果発表

論文OAでお困りのことはありませんか？
ご意見・ご要望、お待ちしております！

 irtf_oa@nii.ac.jp

機関リポジトリ推進委員会 メタデータ検討タスクフォース 報告

2016/11/09

メタデータタスクフォース主査

(千葉大学附属図書館 学術コンテンツ課)

高橋菜奈子

目的および活動計画

目的：次期メタデータスキーマの策定

- 現在の機関リポジトリのメタデータスキーマであるjunii2の改訂を検討し、国際的な動向・技術にあわせた、新たなメタデータスキーマの設計を行う。
- ケーススタディを策定し、国内リポジトリへの適用・実装支援を行う。

なぜ、今、改訂するのか？

- オープンサイエンス・研究データ対応
 - オープンアクセス方針策定への対応
 - 識別子（論文ID, 著者ID等）の活用
 - 国際的なデータ流通の強化
- 抜本的な修正により、汎用性の拡大や相互運用性の向上を目指す。

活動計画

- junii2の次期スキーマ策定
 - 基本方針の提示
 - 次期スキーマ策定
 - 定義表・ガイドライン作成
 - 実装は来年度以降
- テストデータの作成
 - サンプルデータの作成
- 活用事例の提示
 - サービスのモックアップ作成

タスクフォースメンバー



主査: 高橋 菜奈子(千葉大学)

協力員: 佐々木 翼(北海道大学), 前田 朗(東京大学), 南山 泰之(国立極地研究所), 香川 朋子(お茶の水女子大学), 大園 隼彦(岡山大学), 林 豊(九州大学),

国立情報学研究所: 片岡 真, 田口 忠祐, 大向 一輝, 山地 一禎

現在までの成果

活動経過

- 2016年5月27日 第1回ミーティング
 - 今年度の活動計画の議論
- 2016年9月8～9日 集中検討会(第2回ミーティング)
 - 国際動向調査の報告
 - 全体方針にかかわる議論
 - 次期スキーマの要素・語彙の整理
 - 今後の進め方の確認
- 2016年10月21日 「junii2改訂の基本方針」
機関リポジトリ推進委員会で承認
- 2016年11月8日 第3回ミーティング
 - 次期スキーマについて詳細の検討
- 2016年11月8日 メタデータ☆ナイト
 - 現在の検討内容について、関係者から広く意見交換

「Junii2改訂の基本方針」の策定

- 平成28年第2回機関リポジトリ委員会で承認

- **junii2改訂の基本方針**

<http://id.nii.ac.jp/1280/00000210/>

- (1) オープンサイエンス・オープンアクセス方針に対応したデータ要素の追加と整理
- (2) 識別子の拡充にともなうメタデータ構造の修正
- (3) 国際的に相互運用性の高いデータ交換のためのスキーマ定義
- (4) 各機関リポジトリのデータ作成とデータ提供の方式の変更
- (5) 今後のスケジュール

- **junii2改訂案の検討内容(概要)**

<http://id.nii.ac.jp/1280/00000211/>

- 現段階の検討中の内容を含む概要

(1)オープンサイエンス・オープンアクセス方針に対応したデータ要素の追加と整理

- 公的研究助成を受けた学術成果へのオープン化を促進し、論文だけでなく研究データも含めた公開と利用を志向するオープンサイエンスへの期待が高まっている。助成団体や大学としてのオープンアクセス方針を設定する機関も増加している。これを受けて、公的研究助成を中心にオープン化の達成度を把握するための要素と、研究データ等の対象コンテンツの拡大に対応するための要素の追加・整理を行う。
 - ①研究データの要素の追加
 - ②寄与者の語彙の例示
 - ③資源タイプの整理
 - ④助成情報の要素の追加
 - ⑤アクセスレベルの記述

(2) 識別子の拡充にともなうメタデータ構造の修正

- 情報をより正確に識別・同定するためには、ある実体を他の実体と曖昧さなく区別するための識別子が付与されていることが重要である。論文・研究者・機関の情報を正確に扱うために、現在のjunii2のように情報をフラットに記述するのではなく、それぞれの情報をグルーピング(階層化)し、各実体に対して明確に識別子を付与できるようにする。
 - ①論文識別子の整理。
 - ②研究者識別子の導入
 - ③属性

(3) 国際的に相互運用性の高いデータ交換のためのスキーマ定義

- 新スキーマにおいても、日本独自の要素名と語彙を採択するが、学術情報の流通性を高め、国際的なデータ連携に対応するために、海外の主要な連携先を参考にしたスキーマを定義する。かつ、OpenAIRE等の主要連携先とのマッピングを提示する。
 - ①定義の明確化
 - ②国際的な相互運用性の確保
 - ③当面のデータ連携先の想定

(4) 各機関リポジトリのデータ作成とデータ提供の方式の変更

- 各機関リポジトリでは、データ作成・提供の方式の変更が必要となる。システム改修等への影響を考慮し、junii2との変更点を提示する。また、IRDBでの通信プロトコルはOAI-PMHを維持することで、影響を最小限に抑える。なお、当面は、junii2でのハーベスティングも可能とする。
 - ①junii2とのマッピング
 - ②言語コードのマッピング
 - ③資源タイプのマッピング
 - ④使用レベル(Usage)の見直し
 - ⑤OAI-PMH維持

国際的なデータ流通の強化に向けて

- 国際動向の調査
 - OpenAIRE、RIOXX、DataCite、CERIFほか
- 資源タイプはCOARの語彙を想定
 - COARのResource Type Vocabularyは2016年10月に公開
- OpenAIREとの相互運用性
 - IRDBからOpenAIREへのデータ提供（2016年8月～）
 - 今回の改訂でよりよいデータ連携をさらに展開

今後の予定

今後の予定

平成28年度

- スキーマ案・ガイドライン案の提示・意見募集
⇒ 機関リポジトリ推進委員会でのjunii2改訂案の確定
- 国際動向のまとめ
- サンプルデータの作成

平成29年度以降

- IRDBへの実装⇒新スキーマでのハーベスティングの開始
 - junii2でのハーベスティング終了時期は、新スキーマの普及状況を勘案して決定
- CiNiiでの活用例の検討

皆様からのご意見を募集しています

連絡先 : irtf_metadata@nii.ac.jp

指標・評価・メトリックス タスクフォース活動報告

機関リポジトリ推進委員会WG協力員，
広島大学図書館

川村 拓郎

メンバー：

森 一郎（新潟大学）/主査

佐藤 翔（同志社大学）

五十嵐 健一（慶應義塾大学）

青山 俊弘（鈴鹿工業高等専門学校）

常川 真央（IDE-JETRO）

川村 拓郎（広島大学）

目次

- 活動計画
- IRDBコンテンツランキング
- アクセス統計提供サービス
- おわりに

活動計画

1. IRDBコンテンツランキングの公開

- 平成27年度に開発された標記システムを改めて確認し、公開する。

2. アクセス統計提供サービス

- IRDBコンテンツ分析に追加すべき機能を検討し、必要に応じて開発する。

3. アクセスログ解析

- JAIRO cloudのアクセスログを解析し、必要に応じて1)や2)にフィードバックする。

活動計画

1. IRDBコンテンツランキングの公開

- 平成27年度に開発された標記システムを改めて確認し、公開する。

2. アクセス統計提供サービス

- IRDBコンテンツ分析に追加すべき機能を検討し、必要に応じて開発する。

3. アクセスログ解析

- JAIRO cloudのアクセスログを解析し、必要に応じて1)や2)にフィードバックする。

IRDBコンテンツランキング

- 目的

- 自慢できそうな“ネタ”の提供

➡ 自機関リポジトリの理解・活性化

本学は堂々の登録数1位です。

うちは成長率では負けないで！

それはおいといて、幅広く色々集めます。

小規模だけど、頑張ってます！

つまり

上手くりポジトリを紹介する材料(など)に！

アクセス統計提供サービス

- なぜ必要？
 - 自機関の枠を超えて比較できると嬉しい

現状

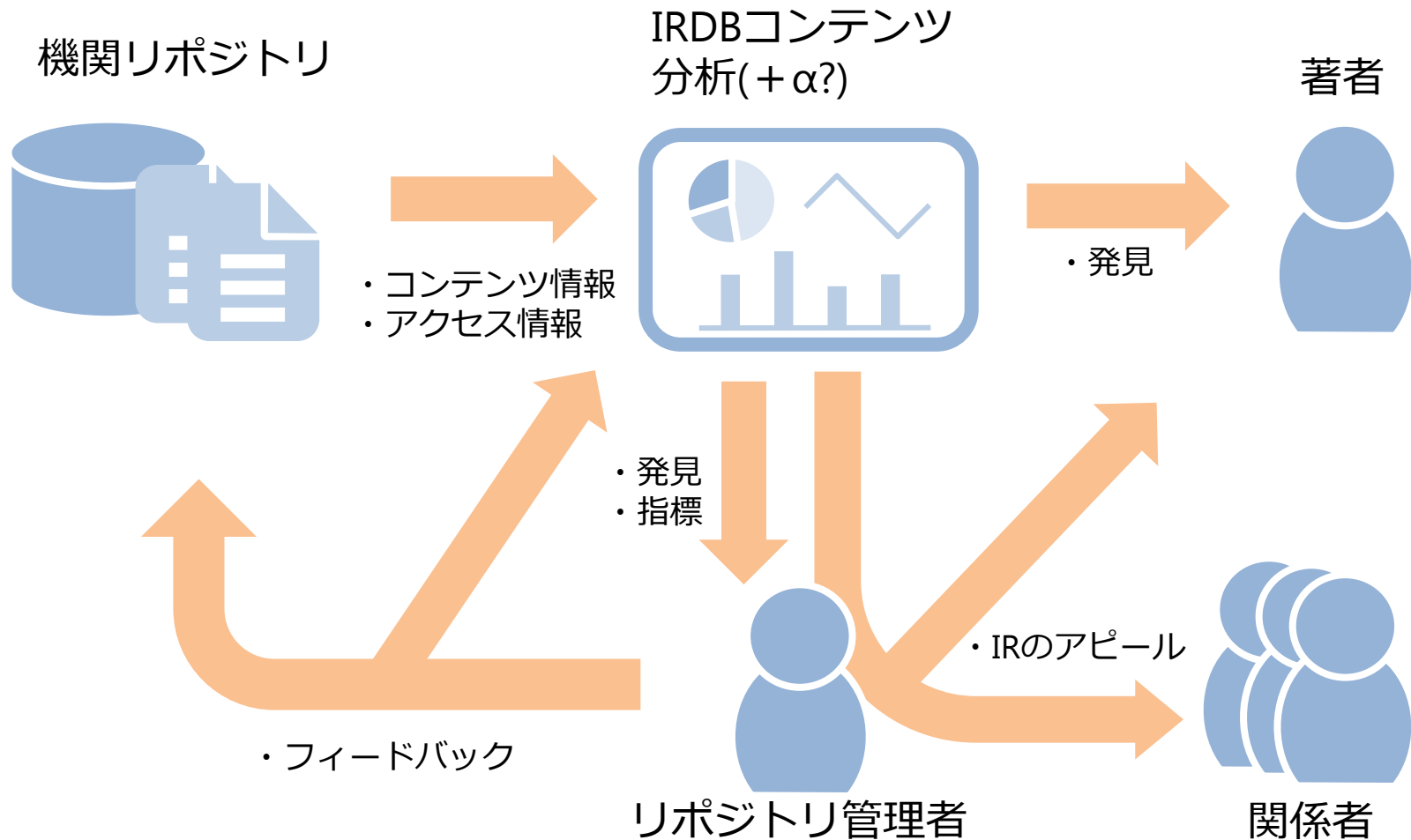
今月は〇〇アクセス！嬉しいけど、凄いの...？

未来

国内の平均が△△くらいだから...、凄いじゃないか！

- 類似サービス
 - IRUS-UK (UK)
 - OpenAIREも動きが
 - “Scaling Usage Statistics across Repositories as an OpenAIRE Analytics Service”, OR2016, 2016.6.14

おわりに (将来の願望?)





Repository Module on NC2
WEKO



COAR Asiaタスクフォース報告

メンバー：山地 一禎（NII）、香川 朋子（お茶の水女子大学）、西薊 由依（鹿児島大学）
事務局：田口 忠祐（NII）

経緯

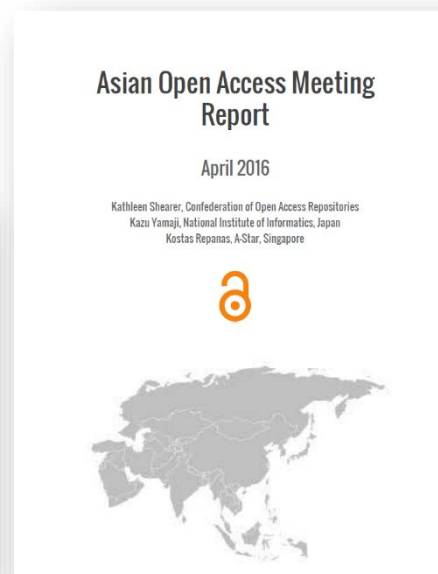
- ▶ CSIの頃から多くの図書館員が国際会議に参加
 - ▶ ポスター発表や個別の情報収集がメイン
 - ▶ 「国際連携」を次のフェーズに発展しても良い段階
- ↓
- ▶ もう少し積極的な機会の必要性
 - ▶ 会議の場で意見を主張できるくらいになって欲しい
- ▶ 日本の機関リポジトリ活動の歴史
 - ▶ 海外からの情報収集
 - ▶ 欧米の先行機関などからのサポート
 - ▶ 日本から欧米へはフィードバックができていますか？
- ▶ COAR年次大会にアジアの参加者が受けた印象
 - ▶ 議論が先行しすぎてついていけない
 - ▶ もっとOAに関する実地な情報交換がしたい



AsiaでOAのコミュニティを作って一石三鳥を狙う

キックオフ会議

- ▶ 2016年3月4日、NII （RDA東京のサテライト会議として開催）
- ▶ 議題
 - ▶ 趣旨説明
 - ▶ 各国の状況の報告
 - ▶ シンガポール、香港、マレーシア、インド、日本
 - ▶ フリーディスカッション
 - ▶ 今後の活動について



<https://www.coar-repositories.org/files/Open-Access-Asia-Report.pdf>

第 1 回会議



Positioning Asia in the Global Movement of Open Science



November 14 – 15, 2016 Kuala Lumpur, Malaysia

Programme - November 14, 2016

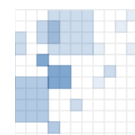
8:30-9:00	Registration
9:00-9:15	Welcome and Opening Remarks
9:15-10:30	Session 1: Open Access and Open Science <i>Why Openness?</i> Kathleen Shearer, Executive Director, COAR, International <i>Current Status of OA Around the World</i> Kostas Repanas, Open Access & Open Data manager for A*STAR, Singapore
10:30-11:00	Break
11:00-12:30	Session 2: Panel Discussion of Current Trends and Initiatives <i>Value Added Services for Repositories</i> Kazu Yamaji, Associate Professor, National Institute of Informatics, Japan <i>Engaging Researchers</i> Aaron Tay, Library Analytics Manager, Singapore Management University <i>Next Generation Repositories</i> Kathleen Shearer, Executive Director, COAR, International <i>Flipping from Subscriptions to OA</i> Kostas Repanas, Open Access & Open Data manager for A*STAR, Singapore
12:30-14:00	Lunch
14:00-15:30	Session 3: Country Updates <i>Singapore</i> Pin Pin Yeo, Head of Scholarly Communication, Singapore Management University Libraries <i>Japan</i> Tadasuke Taguchi, Chief of Research Products Team, Scholarly and Academic Information Division, Cyber Science Infrastructure Development Department, National Institute of



	Informatics, Japan <i>China</i> Li-Ping Ku, Senior Associate Researcher, National Science Library of Chinese Academy of Sciences
15:30-16:00	Break
16:00-17:30	Session 3: Country Updates (continued) <i>India</i> Devika Madalli, Associate Professor, Indian Statistical Institute <i>Hong Kong</i> Scott Edmunds, Executive Committee Member for Open Science at Open Data, Hong Kong Discussion

Programme - November 15, 2016

8:30-9:00	Registration
9:00-10:30	Session 4: Focus on Malaysia MALRep Malaysian Academic Library Institutional Repository TBA <i>Malaysian Citation Centre: Roles and Responsibilities</i> Zuraidah Abd Manaf, Head of Malaysia Citation Center, Ministry of Higher Education, Malaysia <i>Malaysia's Identity and Access Management System</i> Suhaimi Napis, Deputy Director, Private and International Grants, Research Management Centre, Universiti Putra Malaysia
10:30-11:00	Break
11:00-12:00	Session 5: The Role of the Institution in Supporting Open Science <i>Institutional Open Access Policy</i> Tatsuji Tomioka, Deputy Head of Academic Support Division, Kyoto University Library, Japan <i>Institutional Open Data Policy and Services</i> Goh Su Nee, Goh Su Nee is heading the research data management (RDM) unit in the Scholarly Communication Division in the Nanyang Technological University Libraries National University of Malaysia TBA
12:00-12:30	Session 6: Introduction to ORCID Nobuko Miyairi, Regional Director, Asia Pacific for ORCID, Japan
12:30-14:00	Lunch
14:00-15:30	Session 7: Asia OA Working Together
15:30-16:00	Closing



目次

- 機関リポジトリ推進委員会について
 - － 機関リポジトリ推進委員会 / WG
- ~~WG~~/作業部会/タスクフォース報告
 - － 作業部会 : JAIRO Cloud運用 / 研修 / 広報
 - － TF : 研究データ / 論文OA / メタデータ / 指標・評価・メトリックス / COAR Asia